

# 熟達度から見た楽しい英語授業に対する大学生の評価と経験度の違い

鈴木政浩（西武文理大学）

## ．問題の所在

英語学習意欲や学力回復のためになど、楽しい英語の授業を重視する傾向がみられる（松畑,1987）。しかし、「楽しい英語授業」とはどのようなものなのかを整理した研究は少ない。こうした中、森住(1980)が楽しい英語の授業の要素を提案した。ここから楽しい英語授業の要因を明らかにし、その構造を提案した研究がある（鈴木, 2012a; 鈴木 2012b）。この研究は熟達度という学習者要因が楽しい英語授業に対する見方等についてどのような影響を与えているのかを検証できなかった。

## ．方法

1. 目的：1) 9種類の「楽しい英語授業」を受けた経験度が熟達度によりどのように異なるのかを検証すること。  
2) 9種類の「楽しい英語授業」に対する評価が、熟達度によりどのように異なるのかを検証すること。
2. 対象者：埼玉県内の大学1年生94名（熟達度上位群47名、下位群47名）
3. 実施期間：2011年4月
4. 方法：1) 9種類の「楽しい英語授業」を過去に受けた経験があるかどうかを回答してもらい、熟達度上位群と下位群の度数に有意な差があるかを分析する（ノンパラメトリック検定）。2) 2件法のアンケートを使用（1. どちらかと言うとある、2. どちらかと言うとない）。  
2) 9種類の「楽しい英語授業」に対する評価平均値が、熟達度によりどのように異なるのかを分析する（独立サンプルの $t$ 検定）。6件法のアンケートを使用。いずれも鈴木(2012a)のデータを使用した。熟達度については英検3級と準2級の抜粋問題のスコアを使用した。

## ．結果

1. 下位群は上位群に比べ、「安心して参加できる授業を受けた経験」「授業内容がよくわかる授業を受けた経験」の度合いが有意に低かった。
2. 下位群は上位群に比べ「わかる楽しさ」「知りたいと思う楽しさ」「成長する楽しさ」に対する評価が有意に低かった。

## ．考察

1. 下位群は、「わかる楽しさ」に対する評価が有意に低いため、英語授業に対する意欲や授業を通じての成長実感が上位群に比べ乏しいことが考えられる。その結果、意欲や成長実感の格差が拡大している可能性がある。
2. 「安心して参加でき、わかる授業」により、学力回復の可能性はある（鈴木, 2011）。

## 引用文献

- 松畑熙一(1987)『英語は楽しく学ばせたい』大修館書店  
森住衛(1980)「楽しい授業とは何か」『英語教育』4月号, 56-57 大修館書店  
鈴木政浩(2011)「大学における『楽しい』授業の創り方」『新英語教育』No.501, 10-12. 三友社出版  
鈴木政浩(2012a)「英語授業における『楽しさ』の構造」『紀要』第17号 国際教育研究所(in print)  
鈴木政浩(2012b)「英語授業における『楽しさ』の要因に関する研究」『関東甲信越英語教育学会誌』第26号